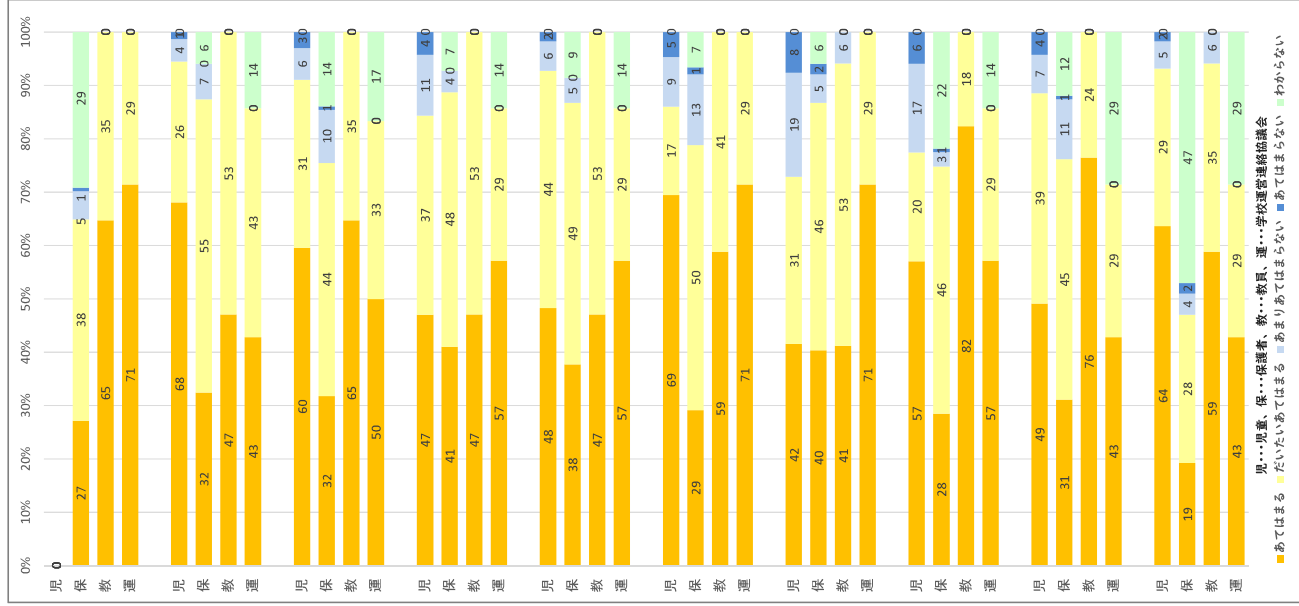


令和7年度中間『学校評価アンケート』集計結果

1	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。
2	確かな学力の育成	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。
3		学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。
4	豊かな心の育成	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動とおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。
5		学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優しい心を育てている。
6	健康やかな体の育成	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。
7		学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。
8		学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。
9	一人一人を大切にする教育の推進	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。
10		学校は、特別支援教育や発達障害等に関し、一人一人に適切な指導を行っている。



11	教師力の向上と魅力ある学校づくり	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。
12		学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かすとしている。
13		学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。
14	家庭・地域との連携	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。
15		学校は、コミュニティ・スクールを推進し、保護者・地域住民等が学校運営に参画し、学校と一体となって子どもたちを育む体制を構築している。
16	特色ある教育活動	学校は、安全・安心な学校づくり(ISS)や体育・健康への取り組みに関する教育を推進している。

1、12、13については児童へのアンケートを実施しておりません。

第2回「コミュニティスクール学校運営協議会」学校評価(中間報告)概要

- 項目1【保・幼・小・中の連携】
・「わからない」の評価が多いことから、学校だよりや学校ホームページで保護者や地域へ取組の内容をより積極的に知らせていく。
項目2～3【学びに向かう力・基礎学力やICT活用の習慣は概ね定着している。個指算に応じた指導とともに、「自分で決める→やってみる→振り返る」のサイクルで自己調整の力を高めていく。
項目4～5【豊かな心】
・道徳授業地区公開講座の保護者参加が増えている。講話や指導の継続で自他の命と身体(グライベートゾーン)を守る意識を高める。
項目6～7【健康やかな体】
・猛暑の影響で屋外の運動量が減っている。夏休みプールの実施方法は検討していく。秋冬にロング昼休みを増やしたり、持久走など体力向上の取組に力を入れていく。
項目8～10【一人一人を大切にすること】
・児童には定期的なアンケートや即時の聞き取りを行い、トラブルや悩みの早期発見と早期解決を図っている。保護者(には特別支援教育)に関する情報提供や発信を増やしていく。
項目11～12【教師力の向上と魅力ある学校づくり】
・児童は落ち着いて生活し、仰高スタダードで学習に集中していることが評議員の参観でも見て取れる。先生方の丁寧な指導のおかげである。学校だよりや保護者アンケート、すぐる活用などでオンラインへ移行中のため、意見集約の安定までには時間が必要である。
項目13～15【家庭・地域との連携】
・児童や保護者が商店街や町会の行事イベントに参加できる機会が多い地域である。保護者がコミュニティ・スクールの意義や活動について知る機会が少ない。地域コーディネーターの選任や組織づくりも課題である。
項目16【特色ある教育活動】
・ISS(インターナショナル・セーフ・スクール)と名称を変え、児童会組織に位置付けて主体的な安全安心な学校づくりに取り組んでいる。TSSの掲揚旗を作成して、意識を高めている。